

# 本を選ぶ

NO.477 2025年(令和7年)2月20日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>未確認飛行物体 続  
●吹田市立博物館令和6年度秋季特別展  
「紙芝居の歴史と阪本一房」見学報告



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

## 未確認飛行物体 続

『いりふね・でふね』(1974年創刊)は発行人ベルナル・ベローと、当時フランスに移住したばかりのグラフィックデザイナー・エディトリアルデザイナー堀内誠一(1932-1987)の二人が始めたミニコミ誌である。フランス在住の日本人や日本人旅行者を読者対象とした『オヴニー』(ovni)はこの『いりふね・でふね』を引き継いで1979年にあらたに創刊され、以来現在に至るまでフリーペーパーとして親しまれている(堀内一家は1981年に帰国)。

堀内誠一は高校を中退し14歳でデパートの伊勢丹百貨店宣伝課に入社、広告部に席を置く。退社後1955年アド・センター設立に参加。その後独立して個人で活動。デザイナー、アートディレクター、絵本作家。雑誌作りにおけるエディトリアルデザインの先駆者であり、「an・an」創刊時には、ロゴデザイン、表紙デザイン、さらに本文の斬新で大胆なページレイアウトなども手掛けた。海外取材にも挑むなどヴィジュアル系雑誌の可能性を大きく広げたと評価されている。

折しも東京の立川市のPLAY! MUSEUMで「堀内誠一展 FASHION・FANTASY・FUTURE」が開催されている。(2025年1月22日~2025年4月6日)

「大きな絵本の森の中を歩き、原画や映像に出会う「FANTASY」展:大人から子どもまで、誰もがわくわくし、心ときめく展覧会が「FANTASY」。『ぐるんぱのようちえん』や『オズの魔法使い』など、堀内さんがファンタジーを描いた9つの絵本作品を大空間で楽しめます。楕円の展示室は高さ3メートルの大きな絵本や壁で仕切られ、来場者は迫力ある大きな絵を見たり、美しい原画を鑑賞したり、時には幻想的な映像を味わいながら進んでいきます。」(＜絵本ナビ＞HPから→[https://style.ehonnavi.net/odekake/2025/01/29\\_161.html](https://style.ehonnavi.net/odekake/2025/01/29_161.html))

堀内誠一は「an・an」「BRUTUS」「POPEYE」など雑誌のロゴデザインや「an・an」創刊時にはアートディレクターとして活躍し、こうした雑誌のロゴは今なお使われ続けている。1987年に惜しまれて早逝するまで、長女としてともに暮らした堀内花子の回顧の文章には、父誠一のいささか破天荒な人となりと仕事ぶりが生き生きとそして優しく語られている。映画や写真、音楽への深い関心もパリでの毎日の生活から見えてくる。加えて8歳から思春期にかけて父とパリで生きた自身の苦労も見えて興味深い。(『父・堀内誠一が居る家 パリの日々』堀内花子 著/カノア/2024年)

そこには堀内誠一をとりまく人たちの名前が次々と登場する。谷川俊太郎、石井桃子、太田大八、出口裕弘、立木義浩、奈良原一高、瀬川康男、瀬田貞二、梶山俊夫、スズキコージ、甲斐信枝、矢川澄子、植田正治、岸田衿子、松居直、種村季弘、、、まだまだたくさんの人たちが見える。(埜村太郎)

# 吹田市立博物館令和6年度秋季特別展 「紙芝居の歴史と阪本一房」見学報告

菅 修一

## I. 概要

大阪府吹田市にある吹田市立博物館（以下、同館）で開催された令和6年度（2024年度）秋季特別展「紙芝居の歴史と阪本一房」（以下、同展）（期間2024年10月12日～11月24日）（図1）を見学した。紙芝居の歴史と共に、吹田市を拠点に紙芝居や人形劇の活動を行った阪本一房氏の業績を81点の資料により紹介していた。同展を観ることによって阪本氏をはじめ紙芝居に情熱を傾けた人々がいたことを知ることができた。以下、同展を担当された同館学芸員の藤井裕之氏のお話と同展の展示図録の説明に基づき見学報告する。



図1: 同展チラシおもて面

明に基づき見学報告する。

## II. 紙芝居前史

紙芝居前史として、ストーリー性のある仏画や寺社縁起の絵巻・掛幅の絵などを棒で指し示しながら解説、説明を語り聞かせる「絵解き」、江戸時代中期から明治、大正期に隆盛した「のぞきからくり」、種板と呼ばれるガラス板に描かれた絵を和紙のスクリーンに映し出す「写し絵（錦影絵）」、極彩色で周囲は黒く着色した紙人形を挟んだ竹串を黒布が背景となる舞台に開けられた穴に差し込み浮かび上げさせ、竹串を回し、差し込む位置を変えながら、物語を展開させた「立ち絵」を紹介していた。

## III. 紙芝居の歴史

### 1. 街頭紙芝居

1930年に手描きの一点もの『魔法の御殿』（作：後藤時蔵/画：永松武雄）によって現在のスタイルの紙芝居が誕生した。『黄金バット』（作：後藤時蔵/画：永松武雄）は同年秋に作られた。展示会場では大空社刊行の復刻版『元祖黄金バット』（画：永松武雄/1995年/同館蔵）が展示されていた。当時の紙芝居は現在の紙

芝居の約半分の大きさが主流で、説明や台詞の裏書きはなく、口伝であらすじを伝えるものであった。貸元が作家にストーリーを考えさせ、それに従い画家に画面を描かせて制作し、1巻10画面前後で続編が次々に制作され、貸元に会員として属する紙芝居屋に順次貸し出して賃料をとった。紙芝居屋は街頭で子どもたちの集まる場所を選び1回におよそ3種類の物語を演じ、子どもたちに飴やお菓子を売った。場所を変えながら1日5～9か所で演じた。都市で封切となった紙芝居はひとまわりすると地方へ送られた。地方といっても拠点都市が多く町村部では街頭紙芝居が実演されることは少なかった。戦時下は国策紙芝居に取って代わられたが、戦後は1946年頃から復活し、1953年全国の紙芝居業者は5万人で、戦後の最盛期となった。1955年前後からテレビの人気に押され、街頭紙芝居はしだいに町から消えていく。

### 2. 街頭紙芝居への検閲

街頭紙芝居へ子どもが群がることからの交通障害、紙芝居屋が汚い手で飴を売ることによる非衛生、内容が荒唐無稽、画面は猟奇的なものなど刺激の強い作品があり教育上有害と子どもたちへの悪影響が懸念され、1938年3月から警視庁の検閲が始まった。国策紙芝居の体制下となる1943年には内閣直属の情報局により脚本の検閲が行われ、終戦後の1945年11月から1949年10月までは軍国主義根絶と自由主義的傾向奨励のためのGHQによる検閲があったことを紹介していた。その後も、業界主導で1951年に紙芝居倫理規定管理委員会が設立され、審査が行われた。検閲済の押印のある紙芝居が展示されていた。

### 3. 教育紙芝居

前述のように、街頭紙芝居は批判を浴びることが多かった。紙芝居の特徴を教育に役立てるために教育紙芝居が誕生した。

#### 1) 今井よね

キリスト教信者で、1932年から日曜学校の仕事に関わった今井よね（1897-1968）は、日曜学校への子ども

の集まりが悪い理由に子どもたちが街頭紙芝居を見に行っているからだということを知り、街頭紙芝居を見て、自らも街頭で紙芝居を演じて布教活動に利用した。今井は紙芝居のわかりやすさ、おもしろさ、貧しい子どもたちが容易に安価に毎日見ることができる普及性の高さを評価したという。今井は1933年に「紙芝居刊行会」を設立し、紙芝居の印刷出版を開始した。展示された「少年ダビデ」（作：今井よね/画：板倉康雄/紙芝居刊行会/1933年7月20日/人形劇の図書館蔵）は最初の印刷紙芝居にあたる。

## 2) 高橋五山

高橋五山（1888-1965）は東京美術学校を卒業後、大正初期から絵雑誌の編集に携わり、1931年に全甲社を創立し、紙芝居を出版した。今井よねの影響を受け幼児の情操教育に役立つ紙芝居「幼稚園紙芝居」を1935年から刊行した。グリム童話その他、世界の名作、内外の民話や伝説を素材に作品をつくった。会場には『七ひきのコヤギ』（幼稚園紙芝居第十五輯）（作画：高橋五山/全甲社紙芝居刊行会/1940年/同館蔵）などが展示されていた。なお、五山の孫の妻である高橋洋子氏が再度、全甲社を立ち上げ、五山の思いを引き継いでいるとのことであった。<sup>1)</sup>

## 4. 国策紙芝居

1937年、日中戦争がはじまると紙芝居はコミュニケーション力の高さから国策に利用されるようになった。日本教育紙芝居協会が戦争に協力する国民教化を目的とする紙芝居を刊行した。展示された『マレー沖海戦』（脚本：堀尾勉/絵画：小谷野判二/日本教育紙芝居協会/1942年/人形劇の図書館蔵）はマレー沖海戦での海軍航空隊の活躍を描くとともに、銃後の国民の奉公の道として戦費調達のための貯蓄、債券購入を訴えていた。また、展示されていた『ユダヤの陰謀』（著者：篠崎昌吉/演出：白居竹山人/画：平井房人/大阪府内政部振興課/1943年/同館蔵）は、米英との戦いの背景にユダヤ人の陰謀があると説き、太平洋戦争勝利のために軍費負担を呼び掛け、「大阪府貯蓄目標額35億円」と掲げていた。なお、紙芝居関係者は児童文化関係者を統制する組織「日本少国民文化協会」の紙芝居部会に参集した。紙芝居が特集された日本少国民文化協会発行の雑誌『少国民文化』昭和17年10月号（同

館蔵）が展示されていた。

## 5. 大阪の戦後教育出版紙芝居

戦後まもなくの地方における紙芝居出版の動向は不明な点が多いといい、分かっている範囲で紹介が行われた。大阪の中心的な紙芝居出版社の一つに教画出版株式会社があった。1954年から1956年にかけて教員による紙芝居グループに参加していた人たちの作品を出版した。『ころころ健ちゃん』（保健教育シリーズ第二集5）（作：ツカダキタロー/画：鹿目尚志/教画出版/1955年/同館蔵）が展示されていた。作者のツカダキタローは戦前から活躍していた関西童話会の人々が関わった大阪童話教育研究会の創設メンバーであった。当時、紙芝居に関わった教員たちは街頭に出て紙芝居上演することもあったという。また、社会教育教材としての大人向け紙芝居もあり成人教育視聴覚資料委員会が企画・制作した『御利益石/社会衛生』（作：吉村一信/画：Rinji/1949年/箕面市立中央図書館蔵）が展示されていた。御利益石を信仰する村人たちに石に頼る悪習を改め、医師の正しさと保健所の役割を知らせようとするものであった。小学校の教育カリキュラムに即し大量の紙芝居が刊行されたが、1967年の文部省による教材基準の改訂により教育出版紙芝居は学校教育から除外され、保育紙芝居や図書館での利用が主体となり紙芝居の出版規模は縮小していった。

## 6. 手づくり紙芝居運動

出版紙芝居が斜陽化していく一方、1980年代になると、内容、形式とも自由に作る手づくりの紙芝居が盛んになった。1980年には、神奈川県で「第1回手づくり紙芝居コンクール」が開催された。1986年からは子どもの文化研究所主催「全国紙芝居まつり」が隔年開催されて、手づくり紙芝居を中心とした全国各地の紙芝居関係者が集まる。関西では、1989年に「箕面紙芝居まつり」、1991年から2021年まで「箕面手づくり紙芝居コンクール」が開催された。

## 7. 高齢者向け・介護紙芝居

2000年以降、高齢者ケアの現場で生かせる紙芝居ができあがり、印刷出版紙芝居が成立するようになった。展示された『みいちゃんの冬』（脚本・絵：ピーマ

ンみもと/監修:遠山昭雄/雲母書房/2010年/同館蔵)は老人ケア童謡参加型紙芝居で、ストーリー展開の中で参加者が童謡を歌い、季節の行事の記憶を尋ねながら参加者が盛り上がる紙芝居となっているという。

## 8. 人生紙芝居

人生紙芝居は介護事業所「NPO法人みんなの家」の奥田真美氏が試行錯誤しながら考案したものである。介護利用者のライフストーリーを聞き取り、紙芝居にするものである。聞き取りをする中で、関係が深まり、介護利用者の自己肯定感が増し、心の安定につながるだけでなく、制作過程を通じて家族を含む介護者の利用者理解につながり、被介護者との関係改善につながっていく。『しょいくらべ』(脚本・絵:みんなの家・奥田真美/監修:遠山昭雄/雲母書房/2009年/箕面市立中央図書館蔵)は出版された人生紙芝居で、お年寄りが語ってくれたいたわりあいながら暮らしてきた夫婦の心温まる思い出の作品であった。なお、プライベートな内容のものは一点ものとなり、聞き取り対象者やその家族にプレゼントされる場合もあるという。

## IV. 阪本一房と紙芝居

### 1. 阪本一房

本展示の大きな柱となっていたのは阪本一房(通称:いっぼうさん)(1919-2001)である。阪本は人形芝居や紙芝居の創作、上演を通じ、地域の児童文化を支えた人物であった。特に晩年は演劇の新たなありかたとして紙芝居に取り組んだ。吹田神境町(現在の吹田市南高浜町)に生まれた阪本は、戦中に軍需工場で柏木茂弥に出会い、演劇・文学・美術の知識を学び、柏木に誘われ1948年に入った大阪人形座で小代義雄に師事し、後々まで大きな影響を受けた。

### 2. 街頭紙芝居に従事した阪本

大阪人形座が活動を停止していた1949年から1952年にかけて、阪本は街頭紙芝居に従事する。阪本は1952年、紙芝居業者の質の向上を目指し、「紙芝居新聞」(田中画劇社友愛会刊)を月2回発行し、根田等のペンネームで記事を書いていた。大阪の紙芝居の現状を憂いた「大阪地方の紙芝居」(「紙芝居新聞」1952年2月15日/同館蔵)などが展示された。展示されていた『か

るぐち』(同館蔵)は阪本による自らの同人誌で1971年から1975年まで発行された。同誌で阪本は1949年から1952年までの大阪の街頭紙芝居最終期の状況を記した「紙芝居屋の日記」を掲載した。この日記はさらに補弼して関西児童文化史研究会から出版された『紙芝居屋の日記/大阪=昭和二十年代』(1990年/同館蔵)も展示されていた。

### 3. 人形芝居出口座での紙芝居

阪本は1975年に人形芝居出口座を旗揚げした。出口座では1985年頃から紙芝居上演が行われるようになり、1991年には紙芝居部を創設、1992年以降は活動の中心を人形劇から紙芝居へと移した。

阪本は、独自の主張を持って紙芝居に取り組んだ。印刷紙芝居の裏に書いてある記述を朗読するのではなく、芝居なのだから動いているようにみえるように演じることを主張し、機関誌『出口座』1992年12月に創作紙芝居を「絵芝居」というと宣言した。芝居を演じる演者は紙芝居の裏を見るのではなく、紙芝居の横に立ち、動かない絵をお客さんの想像でうまく動かせるように演じる世界の中で一番小さな演劇であるとした。「箕面紙芝居まつり」や「箕面手づくり紙芝居コンクール」に参加した関東からの参加者は関西の手づくり紙芝居演者が紙芝居の横に立って演じる様子に新鮮さを感じたという。阪本は出版紙芝居についても、裏に書いてある脚本を読むのではなく、紙芝居舞台の横に立って、自分らしい演出を取り入れて演じた。この方法は関西の紙芝居演者に影響を与えた。展示会場では「てんからおだんご」(原作:高橋五山/脚本:堀尾青史/画:金沢佑光/童心社/1976年)や「おけやのてんのぼり」(脚本:川崎大治/画:二俣英五郎/童心社/1971年)等を演じた阪本のビデオが上映されていた。

### 4. 関西紙芝居文化研究会

阪本は、紙芝居仲間の小森時次郎氏、子ども文化研究者の堀田穰氏、北摂の手づくり紙芝居グループなどと、1988年、関西の紙芝居活動をネットワーク化し、実演、研究、普及を推進するために「関西紙芝居文化研究会」を発足させた。このメンバーは、「箕面紙芝居まつり」、「箕面手づくり紙芝居コンクール」の中心的なスタッフとなった。機関誌として1993年から『絵

芝居』が刊行され、創刊号から1998年1月号まで阪本が執筆する「絵を演じる」が連載された。『絵芝居』は現在も継続刊行され、紙芝居運動を理論的、実践的にリードしている。1993年7月発行の創刊号と阪本を追悼する特集号となった2001年4月発行の89号（いずれも同館蔵）が展示されていた。

## 5. 民話・昔話と紙芝居

阪本は地元の神境町自治会の役員となった1966年、自治会月報の発行を思い立ち、吹田郷土民話を掘り起こし、連載した。その後、書きためた吹田郷土民話を機関誌『出口座』に連載した。また、郷土民話かるたを制作した（吹田市立博物館／『出口座と阪本一房：現代人形劇の継承と発展：開館30周年記念』/2022年/pp. 43-45）。紙芝居については吹田の民話を題材にした『血の池』（1985年/小森泉氏蔵）、『新田の蛇まくら』（1990年/箕面市立中央図書館蔵）が展示されていた。いずれも阪本一房作であり、阪本に請われた小森時次郎が街頭紙芝居を思わせるタッチで絵を描いていた。

## 6. 画家との対話による革新的な紙芝居の創作

展示された『たすけて』（脚本・画：小森時次郎/1991年/同館蔵）は、小森が体調をくずし、入院していた時にみた夢の内容を翌朝すぐに絵にした作品で、阪本は高齢化社会の老人医療問題を想像し、これまでの小森とは異質な絵であると評価し、阪本により全国で演

じられた。また展示された『風』（脚本・画：ふるた加代/脚色：拍子木/箕面市立中央図書館蔵）は、阪本が吹田市中央公民館で開講した紙芝居講座の受講生により立ち上げられたグループ「拍子木」に加わり、のち、出口座内部のユニット「劇団蝸牛」で紙芝居の絵や人形劇の人形造形に力をふるったふるた加代による紙芝居であった。内容はシルクハットにフロックコートの英国風紳士が風に向かって歩くうち、強さを増す風に、傘を飛ばされ、衣服をはぎ取られるという様子が描かれていた。

## V. おわりに

筆者は図書館司書資格課程の児童サービス論の授業を担当し、学生とともに紙芝居を実演したことがある。それは印刷紙芝居の裏側に記されている脚本を朗読するものであった。同展を観ることにより、様々な先人が紙芝居に取り組んでいたことを知った。特に阪本一房による長年の紙芝居についての情熱的な取り組みは阪本の地元である大阪府吹田市だけでなく、「箕面手づくり紙芝居コンクール」などにより全国の紙芝居関係者に新しい紙芝居の視点を提供したことであろう。先人の取り組みを詳しく紹介された同館並びに展示を担当された藤井裕之学芸員に感謝申し上げたい。

<参考・引用文献>

1) 高橋洋子/高橋五山の紙芝居を復刻して(連載コーナー:私の体験)/Wendy-net[internet]. <https://wendy-net.com/series/experience/backnumber/ex201806/>[accessed-2025-01-12]

2) 『吹田市立博物館だより No.99』(2024) pp. 2~3, pp. 4~7

(すが しゅういち:花園大学非常勤講師)

## DMがたろく

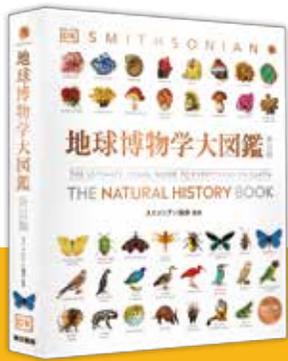
**ESTRELA** ■2025年2月号  
No.371/2月10日発行  
B5判 64ページ  
定価1,205円(税込)

【特集】国際的な統計の現状と諸問題

- 低中所得国における保健分野の開発目標モニタリングと統計データ整備の現状と課題/  
柴沼 晃(東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学教室 講師)
- 時間使用データの現状と展望:国際的枠組みとデジタル化の可能性/  
那須田 晃子(武蔵野大学経済学部経済学科 講師)
- ASEAN諸国における相互補助の枠組み  
~ASEAN HELP ASEAN FRAMEWORK (AHAF)に関して~  
黒田 知幸(コル・レーニョ(株) 主管研究員)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階  
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

**世界最大の自然博物館開館!**  
生命の驚異的な多様性がこの1冊に!  
世界75万部のベストセラー  
待望の新訂版



**地球生物学大図鑑** 新訂版  
スミソニアン協会監修  
オールカラー・672頁 定価11,000円(税込)  
◀詳しい内容はこちらから ▶ 東京書籍



J.ブレナン／玉手慎太郎・見崎史拓・柴田龍人・榊原清玄 訳

## 投票の倫理学 上・下



ちゃんと投票するってどういうこと？ 常識を疑ってみる。各3300円

## 飯田 隆 増補改訂版 言語哲学大全IV



真理と意味 言語哲学の《大河入門書》増補改訂版全4巻が遂に完結！ 4730円

勁草書房 TEL 03-3814-6861 \*価格税込  
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

16人の奇才・天才浮世絵師たちと、  
1人のスーパー出版プロデューサーの人物列伝！  
山あり谷ありの人生とキャラクターに迫る！



山川出版社 TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469  
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13 <https://www.yamakawa.co.jp/>

## 買物進化論

マーケティングが生み出す楽しみ(仮題)

西村直久 [著]

3月中旬刊

●予価2420円(税込) ISBN 978-4-535-54104-7

未来の買物は  
ますます便利で  
楽しくなるのか？

「家事」から「娯楽」へ、「モノを買う場所」から「心の拠り所」へ  
120年の買物史を紐解き未来を予測する、メーカー必携の一冊。

## 新版 社会的選択理論 への招待

投票と多数決の科学

坂井豊貴 [著]

●予価2530円(税込) ISBN 978-4-535-55926-4

3月中旬刊

多数の人々の意見を集約するにはどうすればよいか。理論の実装例や、マジョリティ・ジャッジメントの解説を加えた改訂版。

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4  
☎03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>

言葉のあるところには、  
すべて校正がある。

マンガ レシピ テレビ  
辞書 ウェブ 法律書  
スクール 地図 新聞  
商業印刷物 雑誌

『校正・校閲 11の現場』  
こんなふうには読んでいます

半田都子

詳しい内容は  
こちらから▼

『校正・校閲 11の現場 こんなふうには読んでいます』  
半田都子 定価 2,200円(税込) ISBN978-4-87758-868-7

アノニマ・スタジオ 〒111-0051 東京都台東区蔵前2-14-14-2F  
Tel:03-6699-1064 Fax:03-6699-1070

## 法律学小辞典 第6版

高橋和之・伊藤 眞・小早川光郎  
能見善久・山口 厚／編集代表

最高の編集・執筆陣による信頼と充実の辞典。学習・実務に必要な概念・用語等を網羅。 四六判箱入 定価 5,720円



## 刑法 第4版

山口 厚 著

刑法総論・各論を1冊にまとめ、刑法学の全体像を描いた好評テキスト。令和5年改正(性犯罪規定改正)や最新判例等に対応。

A5判 定価 3,630円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17 <https://www.yuhikaku.co.jp/> 価格は税込

それでも、  
安楽死の話を  
するのなら  
西智弘

医師 [腫瘍内科・緩和ケア]

もし未来に安楽死制度を作るならば、考えるべきことは。制度の設立・実施に慎重な立場を取る現役の緩和ケア医が、問題の論点を整理し、わかりやすく解説する。 1760円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-11  
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>